

フライングモア

GMF47

BARONESS 草刈機 使用説明書

▲ 危険・警告

ご使用前に、必ず使用説明書をよく読んで正しく作業してください。

使用説明書の指示内容を守ってください。

守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。



株式会社 共栄社

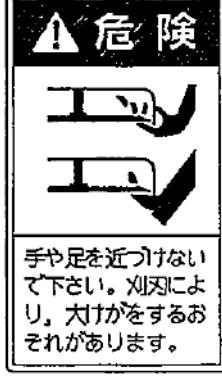


注 意

- この使用説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損のおそれのない、すぐ取り出せる所に必ず保管してください。
- この説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は、販売店より新しく使用説明書を購入し、常に参照できるよう保管してください。
- この使用説明書で解説している機械を、貸与する場合、借りて作業をする者に、この取扱説明書を読ませ、十分な指示、訓練を行なった後、この使用説明書とともに機械を貸与してください。
- 製品を譲渡される場合は、この使用説明書を製品に添付してお渡しください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

警告表示マークの意味

- この使用説明書で解説されている機械には、下表の「警告表示マーク」のラベルが貼付しております。ご使用前に「警告表示マークの位置」を、本機「各部の名称」の項で確認し、マークの意味を理解してください。
- 万一、ラベルが磨滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は販売店より、新しくラベルを購入し、「各部の名称」に指示してある箇所に貼り、常にマークが読める状態を維持してください。

警告表示マークと解説	警告表示マークと解説
 ご使用前に必ず取扱説明書をよく 読んで正しく作業してください。	 警 告 マフラー周りに付着した刈草、ゴミは、エ ンジンを停止してから、速やかに取り除 いてください。 乾燥時には火災の恐れがあります。
 使用時は保護長靴、保護眼鏡、保護 手袋、保護帽子等の保護具を着用 してください。	
 刈取部より異物が飛散し、危険で す。周りに人や動物がいないこと を確認して作業してください。	 危 険 手や足を近づけない で下さい。刈刃によ り、大けがをするお それがあります。

はじめに

- 共栄社フライングモアをお買い上げいただき、ありがとうございます。
このフライングモアは、草刈りや芝刈りに使用する機械ですのでそれ以外の目的には使用しないでください。

この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。

目 次

はじめに	1
各部の名称	2
正しい作業のために	4
組立	11
操作方法	12
点検・整備	15
故障診断と対策	19
保管	20
仕様	21

本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげ、図示されている内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。

本製品はハンドルとデッキ部は別々になっていますので、組立作業が必要となります。

危険・警告

- 正しい操作のための警告・注意を注意深くよく読んで理解すること。
正確で正しい操作のために、この取扱説明書を必ず読むこと。



危険・警告という言葉とともに使われるこの記号は、回復できない身体の損傷をともなうケガや死に至る危険が起る可能性のある操作や状態を強調する場合に使われます。



丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

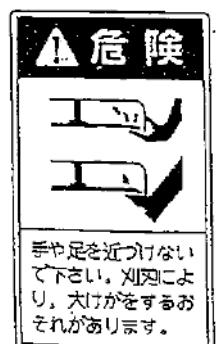
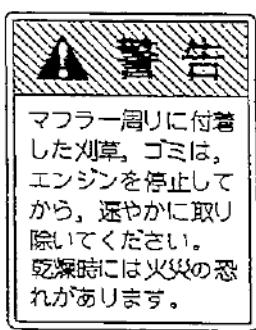
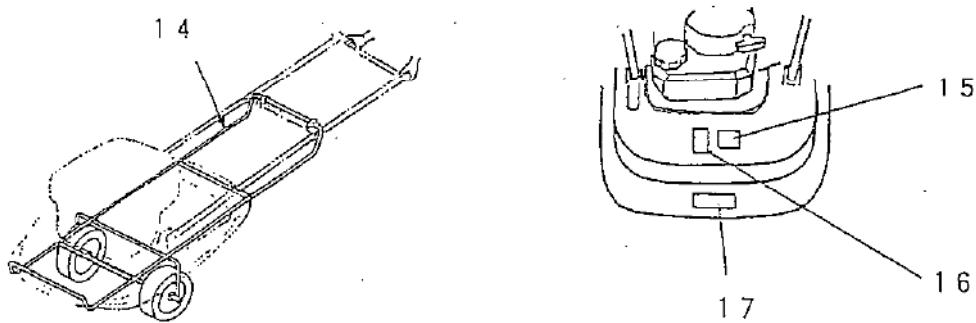
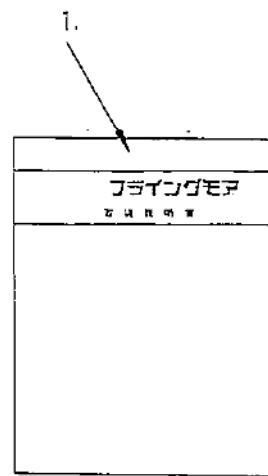
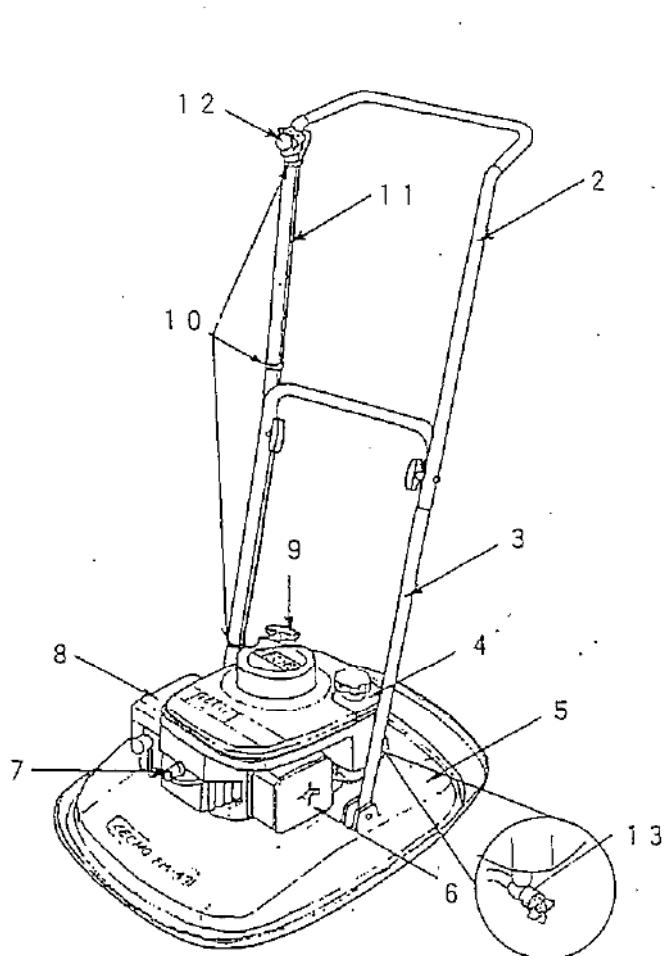
注意

この取扱説明書で「注意」と言う言葉は、避けられなかった場合、軽いケガや切りキズが起る可能性がある状態を強調する場合に使われます。

重要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する注意事項です。

各部の名称

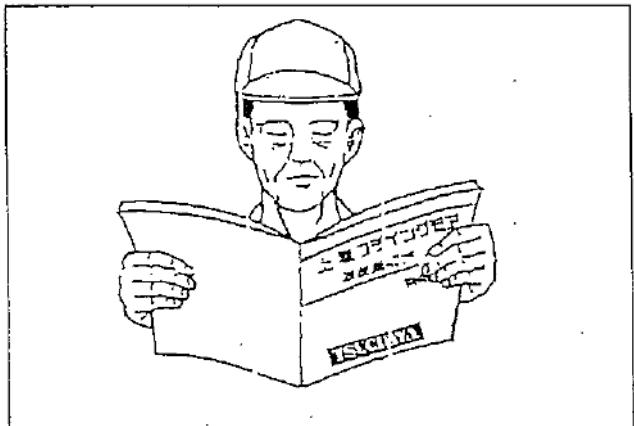


各部の名称

1. 取扱説明書
- 機械をお求めになった時必ず付いています。
機械を使用する前に必ず読んでください。また正しい操作技術を再度確認する場合に備えすぐ取り出せる場所に、必ず保管してください。
2. 上ハンドル
- 作業時に握るハンドルで、停止スイッチがついています。
3. 下ハンドル
- 上ハンドルとデッキを連結します。
4. 燃料タンク
- 燃料を入れる容器です。
5. デッキ
- 刈刃から作業者を守るとともに、ファンの風により、全体を浮かせます。
6. エアクリーナカバー
- エアクリーナを保護し密封するカバーです。
7. スパークプラグ
- エンジンに点火するプラグです。
8. マフラーカバー
- マフラー（消音器）のカバーで作業者が不意に熱いマフラーに触れるのを防ぎます。
9. リコイルスター
- このハンドルを引いてエンジンを始動します。
10. 固定バンド
- リード線をハンドルに固定します。
11. リード線
- 停止スイッチとイングニッションコイルをつなぐ電線です。
12. 停止スイッチ
- エンジンを停止する時に押さえるスイッチです。
13. 燃料コック
- 燃料タンクと気化器の間の燃料通路を開閉します。
14. 移動用カート
(別売)
- 本機を移動するためのカートです。
15. 警告表示ラベル
- マフラー回りの刈草、ゴミを取り除くよう表示しています。
16. 危険表示ラベル
- 刈刃に手や足を近づけないよう表示しています。
17. 注意ラベル
- 取扱説明書を読むこと、保護具を付けること、異物の飛散に注意することを表示しています。

正しい作業のために

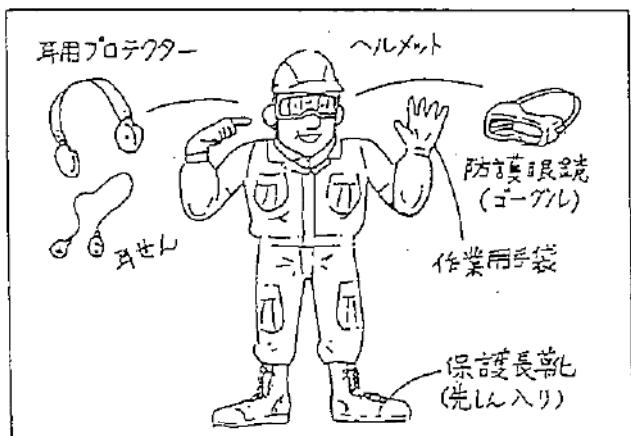
訓練



▲ 危険・警告

このフライングモアは、草刈り作業中小さな砂利や、石、ガラス片、金属プラスチック片などを、はね飛ばすことがあります。

この「正しい作業のために」を注意してよく読み、書かれている指示には必ず従うこと。



- この取扱説明書を注意してよく読んでください。
 - この機械の取扱いと正しい使い方について、完全に慣れてください。
 - エンジンの正しい始動方法と、正しい停止方法を覚えてください。
 - 機械の正しい指導や訓練を受けていない人、子供には、絶対に使わせないでください。
- この機械を使用する人は必ず、脚全体や、目、耳、顔、頭部を保護するものを着用し、この取扱説明書を読んだ人でなければなりません。

1. 耳覆い(イヤーマフ)



視覚と耳の保護

長時間大きな音を聞いていると聴覚が弱くなったり、聞こえなくなったりする原因となります。

左図に示す耳覆い(イヤーマフ)や耳栓などの聴覚を保護するものを着用して不快な騒音から耳を保護してください。

目の保護

この機械を使用する人は、刈刃装置から飛んでくる物に対してだけでなく、空中のホコリや、種、花粉からなどに目を保護するものを身につけなければなりません。

日常、めがねを使用している人は、そのめがねの上から保護めがね(ゴーグル)などの目を保護するものをつけてください。目を保護するものは、危険ゾーン(作業者から15m以内)の内側の人はもちろん、外側にいる人も身につける必要があります。

頭部の保護

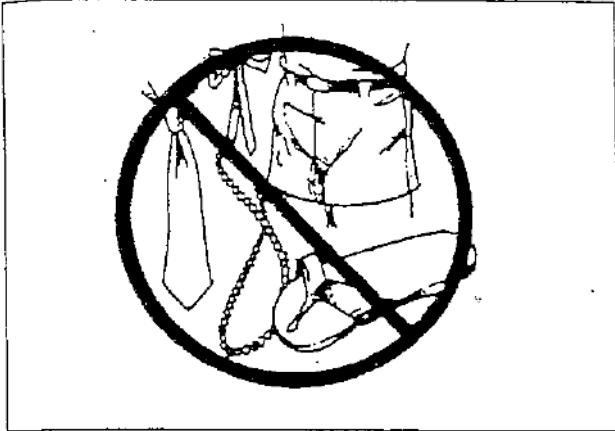
頭上の木の枝や、落下物の危険性に対して、保護帽(ヘルメット)を使用し頭部を保護してください。

顔の保護

飛来物や飛散物から顔を保護するため、フェースシールドを使用してください。



目や耳、頭部を保護する物を身につけること。



身体を保護する衣服

保護ズボンと身体に合ったヒモのついていない作業衣（長袖）を着用してください。袖じまりを良くし腕カバーを着用してください。フリルや飾りヒモは機械やヤブにからまる原因になります。

ネクタイ、だぶついた服、宝石類は着用しないこと。衣服はボタン、チャックを完全にし、作業衣のすそはズボンにいれること。髪の毛は肩より上でまとめるここと。作業用手袋を着用してください。柔らかい革のものは、握りをより確実なものにできます。

脚全体の保護

保護ズボンと、底に滑り止めのついた丈夫な保護長靴（先しん入り）とすね当てを着用してください。刈刃より飛んでくる物から身を守るのに適しています。密集した藪など刈る時は、より厚手の保護ズボンや、すね当てなどを着用することも考えてください。

身体の保護のための追加事項

アレルギー性鼻炎（花粉症）などの症状が出やすい人は薬局などで売っている使い捨ての防塵マスクをつけ、アレルギーを起こす種子を極力吸い込まないようにしてください。

▲ 危険・警告

頭部や目、耳を飛んでくる物から守るだけでなく、身体を保護できる服と滑り止めのついた靴をはき、滑りやすい地面で足場を確保できるようにすること。

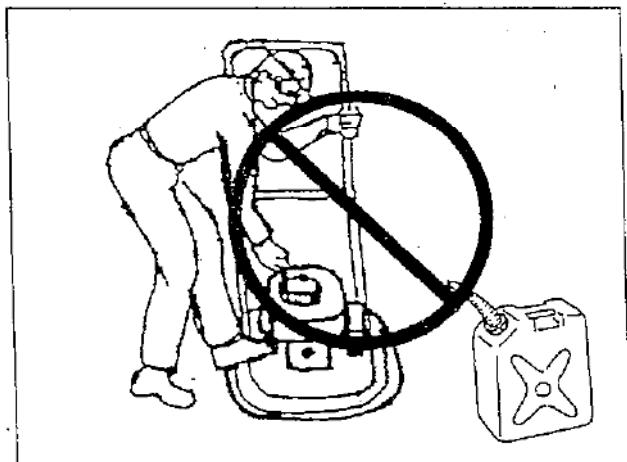
機械に巻きこまれる恐れがあるネクタイ、宝石類、だぶついた服、飾りヒモのある服を着用しないこと。

すそじまり、袖じまりを良くすること。

つま先のあいた靴、はだし、むき出しの脚で作業しないこと。

準備

- エンジン部単体での運転はしないでください。
引火しやすいので、燃料の取扱いには注意してください。
 - a)転倒しにくい燃料容器を使用してください。
 - b)燃料の補給中にタバコをすったり、火花を出したりしないでください。
 - c)燃料容器には、外部との間に気圧差が生じています。燃料キャップをはずす前に、パッキンとキャップの間をすこしゆるめて、気圧差をとり除いてください。
 - d)燃料タンクに燃料を補給するときは、屋外の舗装されていない地面の上で行ってください。
屋内では燃料を補給しないでください。





e) 機械に燃料が少しでもこぼれたら、必ずふき取ってください。

エンジンをかける前に、燃料をいれた場所から最低3 m 移動してください。

f) エンジンがまだ熱い時や、エンジンをかけたまでの燃料補給は絶対にしないでください。

g) 燃料タンクに燃料が残っている状態で機械を保管しないでください。燃料もれがあった場合火災の原因となります。

● この機械を操作する人は、心身ともに健康でなくではありません。子供には使用させないでください。酒を飲んでいる人、薬物の影響がある人は、機械を操作しないでください。視覚や敏しょう性、判断力に影響を及ぼします。機械を使用する前に、作業を行う場所をよくチェックして、機械がはね飛ばしそうな物を取り除いてください。また、障害物の位置を覚えておいてください。

● 使用する前に機械をよく点検してください。整備、調整は、この取扱説明書に記載されていることだけ行って、適切な指示、指導を受けないで修理しないでください。訓練を受けたサービスマンだけが、適切な道具でこの機械の修理点検をおこないます。

以下の点検を行なってください。

a) エンジンから燃料が漏れていないか。

b) ボルトなどの止め金具がしっかりと締まっていて、抜け落ちがないか。

c) マフラー（消音器）は、良好な状態にあるか。

マフラー、マフラーカバー、ガスケットのゆるみや損傷がないか。

d) 作業にあたって、デッキ、ハンドル、停止スイッチ等の装置が適切に取り付けられているか。

e) 作業する際に刈刃は、固定されているか、刈刃は鋭く、割れやヒビが入っていないか、バランスがとれているか。



危険・警告

十分に固定されていない刈刃は、はずれて飛び出す原因となります。

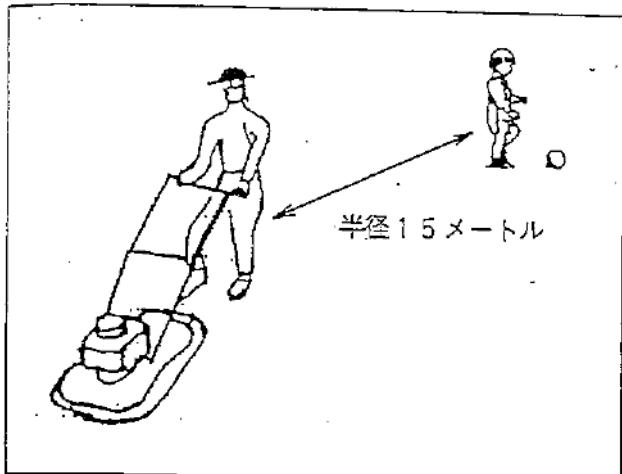


基本的な操作

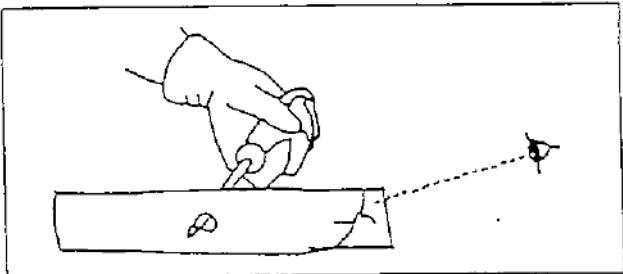
屋内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。エンジンの排気ガスには、死に到る有毒なガスが含まれています。

機械を障害物のない地面に置き、刈刃が地面や他の物に触れないことを確認してください。

本機（デッキ）を足でしっかりと押し付け、リコイルスタートハンドルを引いてください。その時左手でハンドルを下に押し付けるようにして持つと、本機は安定し、始動が容易です。



- 作業中は、先に述べた脚全体、頭部、目および聴覚を保護する物を身につけてください。
作業内容を検討し他の保護策も必要かどうか考えてください。
適切な身体の保護や安全対策をしないで機械を操作することは絶対にしないでください。
視界が悪く、暗い場所では、機械を絶対に操作しないでください。
- 作業中は危険ゾーンに誰も入らせないでください。危険ゾーンは作業者を中心に半径15mの範囲です。
- 危険ゾーンの外側にいる人にも、飛んでくる物から目を保護するものを身につけさせてください。
無防備の人々がいる所では機械を使用しないでください。
作業範囲に子供や見物人、ペットがいないことを確認してください。
機械を中心に半径15mの範囲に子供、見物人、作業を補助する人等を入れないでください。
誰かが近づいてきたら、ただちにエンジンを停止し、刈刃の回転を止めてください。
- エンジンが熱いうちは、火傷を防ぐため、マフラー（消音器）に身体を近づけないでください。
機械が突然ぶれたり、振動したら、ただちにエンジンを停止してください。
突然の振動は、フライホイール、クラッチ、刈刃部の故障や、部品のゆるみなど危険な故障の前兆です。
故障の原因がわかり、修理が終るまで機械を使用しないでください。
機械を停止した時は、刃の回転が停止したことを確認してください。
エンジンが停止していても、刈刃が慣性で回転中は刈刃でケガをすることがあります。
キャブレターの調整は、販売店にご依頼ください。



▲ 危険・警告

ヒビの入った刈刃が欠け作業中に飛散することがあります。

毎回使用前に刈刃をよく点検し、どんなに小さなヒビでも、ヒビが入った刈刃は捨てること。

誤った使い方、研ぎ方は刈刃のヒビ割れの原因になる。

- 必ず当社純正刈刃を使用してください。
- 岩や石、切り株などの障害物に、刈刃を接触させないでください。
- 刈刃を地面にくい込ませないでください。
- 刈刃が障害物に当たった場合直ちにエンジンを止め、刈刃が止まったことを確認してから、刈刃の損傷を点検してください。
- 刈刃の切れ味が悪く、曲がったり、変色しているものや、ナットが摩耗したり損傷しているもので作業をしないでください。
- 作業範囲内の全ての障害物を取り除いてください。
- 機械を持ち運ぶときは、必ずエンジンを止めて運び、マフラー（消音器）は熱くなっていますので、身体に接触させないよう身体から離して持ち運んでください。
- 運搬や保管、手入れなどの際は必ず機械を停止して行ってください。

▲ 危険・警告

危険ゾーン（作業者を中心に半径15mの範囲）の外でも、飛散物によって目にケガをする危険がある。危険は距離によって減少するが、危険ゾーンにいる全員の目の保護を考えること。



振動と冷え

機械を操作する人の体质によっては、指にレイノー症候群と呼ばれる症状が現われることがあります。これは振動と冷えにさらされることにより起こるとされており、指にチクチクとした痛みや、火傷のようなヒリヒリした痛みを感じ、さらには指先が白くなり感覚がなくなります。症状の現われる限度が未解明であるため、以下の注意事項を厳守してください。

- 身体を温かく保つこと。特に頭、首、脚、足首、手及び手首に気をつけて温かくしてください。
- ひんぱんに休息を取り、腕の運動を行って血行をよくして、喫煙はやめてください。
- 本機での作業時間には制限を設けてください。
毎日の作業を本機による作業と、手や指に機械から振動を受けない作業と組合せて行なってください。
- 指に不快感、赤み、腫れがあり、白くなったり感覚がなくなったことのある方は、これ以上振動と冷えにさらされる前に医師に相談してください。



反復作業による傷害

指や手、腕、肩の筋肉やすじを使いすぎると、その箇所にズキズキする痛みや腫れ、マヒ、衰弱、激痛が起るといわれています。手で、一定の反復する動きを長く続けると、反復作業による傷害の危険性が高くなります。この危険性をへらすため、以下の注意事項を守ってください。

- 手首を曲げだままや伸ばしたまま、ひねったままの状態で作業をしないでください。
- 反復作業を最小限にするためと、手を休めるために、定期的に休息をとってください。反復作業をする時は、ゆっくりとゆとりをもって作業してください。
- 手、腕の筋肉を鍛えるための運動を行ってください。
- 指、手、手首、腕にズキズキする痛みやマヒを感じたら医師の診察を受けてください。早期に治療されれば、神経や筋肉の損傷を慢性にならぬうちに防ぐことができます。

万一の事故に備えて

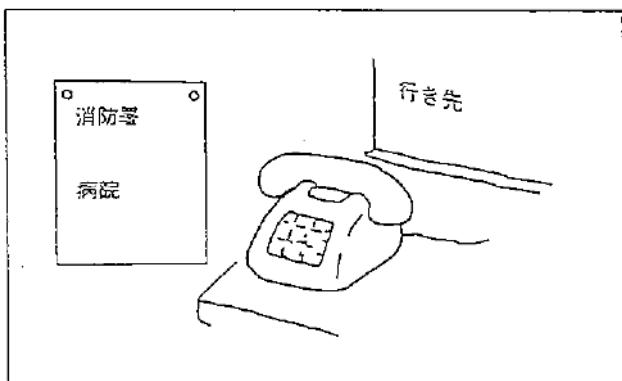
●作業の前に

・万一の事故に備え、電話器のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。

特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。

・単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れない場合の対処として有効です。

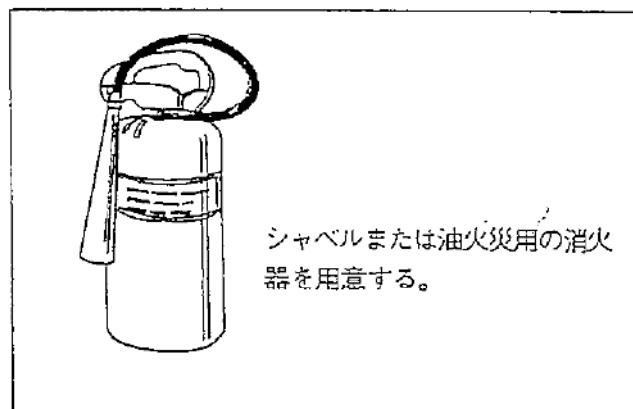
・作業現場には、呼子（笛）を持っていってください。



●発火に対する備え

▲ 危険・警告

万一、エンジンから、発火または発煙したら、機械を身体から離し、まず、消火すること。
この場合、自分の身体もよく守ること。

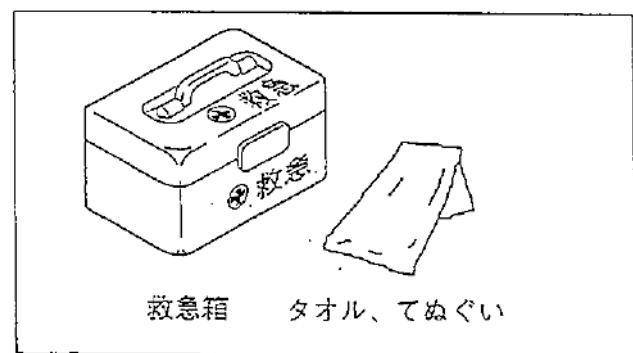


・エンジンから発火または排気口以外から発煙した場合、まず、機械を身体から離し、消火してください。

・自分の身体を、火災その外の傷害から守るよう注意してください。

・草木等に類焼しないよう注意してください。

・シャベルで砂などをかけるかまたは油火災消火用の消火器で消火してください。



●ケガへの備え

・万一のケガへの備えとして、救急用品としては、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。

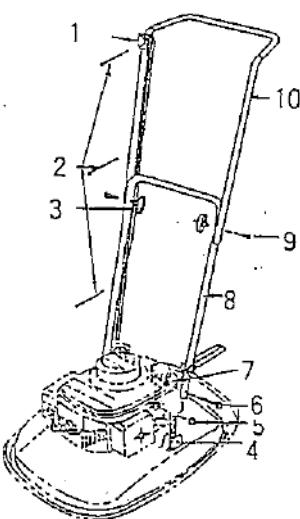
出血をともなうケガについては、止血用に汎用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。

●応急手当

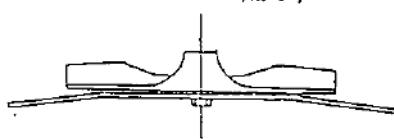
・応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

組立

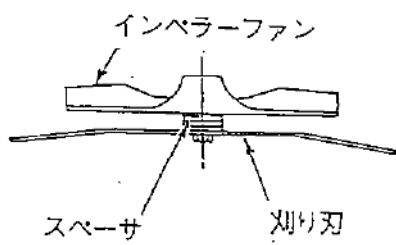
1. スイッチ
2. 固定バンド
3. 手締めナット
4. ハンドル取付け部
5. ブッシュ
6. ボルト (6x50)
7. ロックナット
8. 下ハンドル
9. ボルト (6x35)
10. 上ハンドル



出荷状態（スペーサ無し）



お望みの高さになるよう
に、スペーサの枚数を決め
てください



ハンドルの組付

- 上ハンドル、下ハンドルをボルトおよび手締めナットで組付けます。
- 下ハンドルはデッキ取付部に差し込み、ボルトを外側から通しナットで締め付けます。
(デッキの取付穴には、予めブッシュがそれぞれ内側から組付けてあります。)

重要

- 下ハンドルの取付けナットは、ロックナットです。
ハンドルが、軽く動く処で止めてください。
- 上ハンドルにはON-OFFスイッチを組付けています。更に、エンジン側にもリード線を固定しています。無理にリード線を引つ張らないようにしてください。

刈り高さの調整

- お客様に、最初お届けする機械の刈刃は、最も高い位置に組み付けています。
- 低く刈る場合はスペーサを刈刃の裏側に組み付けてください。
スペーサは3枚あります。
お望みの高さになるように、枚数を選んで組み付けてください。
- 伸びた芝を刈る時は、一度目は高刈りを行い、再度刈り高さを変えて二度刈りをしてください。

危険・警告

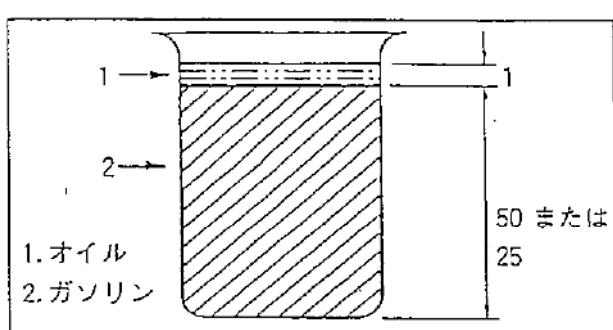
インペラーファン

ご使用前に、ひび割れや大きな傷がないか点検して下さい。

ひび割れや大きな傷がある場合は、危険ですから必ず新しいものと交換してください。

刈刃の締付トルク：250Kg·f·cm

操作方法



燃料

- 本機の燃料にはレギュラーガソリンと、2サイクル用エンジンオイルを混合した燃料を使用してください。正しくない燃料はエンジン機能不良の原因となります。
- 燃料の混合比は、2サイクルエンジンオイルの種類により下記の通り使用してください。

[50:1]

- ・当社純正2サイクル専用オイル
- ・JASO性能分類 FC相当品

[25:1]

- ・市販の2サイクルエンジンオイル
- ・JASO性能分類 FB、FA相当品

- ガソリンとオイルの混合は、確実な容器を使用し、良く混合してください。

重要

JASO性能分類 :

使用者が2サイクルオイルの選択を容易にできるよう、「FC、FB、FA」の3種類に性能分類し容器に表示しています。当社純正2サイクル専用オイルには「FC」の表示がされています。

燃料混合比率表

ガソリン リットル	2サイクルエンジンオイル CC	
	50:1	25:1
4	80	160
8	160	320
20	400	800



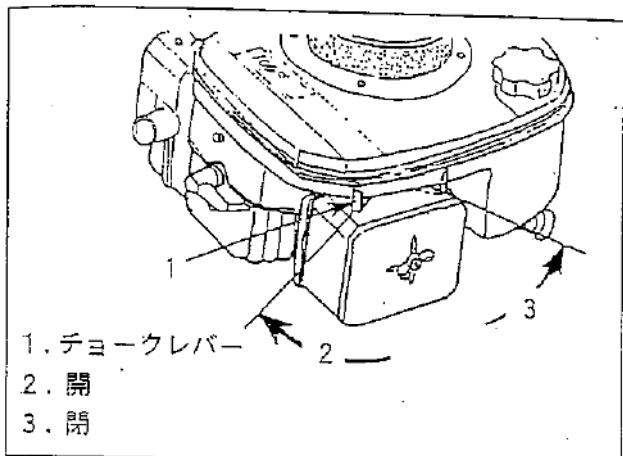
注意

燃料の混合は30日以内で消費できる分量だけにすること。

燃料の混合は機械の燃料タンクで行わないこと。
燃料タンク、燃料タンクキャップ、燃料タンクブリーザー燃料コック、燃料パイプなどは使用前に点検し、異常が発見された場合は使用せず交換してください。

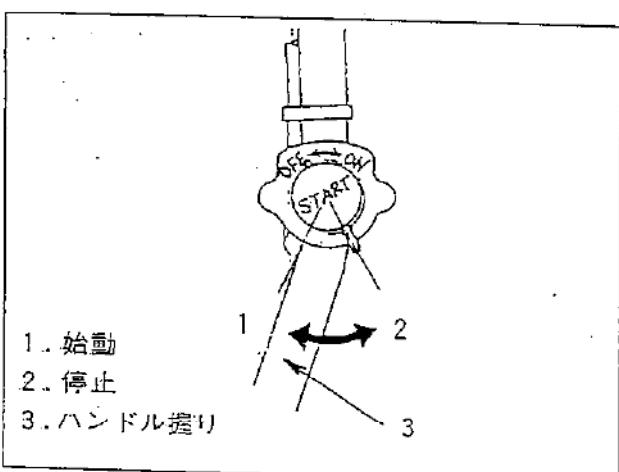
燃料の取扱い

- 燃料の近くでタバコをすったり、炎や火花を近づけたりしないでください。
- 燃料の補給は必ず屋外で行ってください。
- 燃料の補給は、エンジンが熱いうちや、回転中に行なわないでください。
- 燃料容器は確実なものを使用してください。
- 燃料補給後、こぼれた燃料は必ず拭きとってください。
- エンジンをかける前に必ず、燃料を補給した場所から最低3m移動してください。
- 燃料タンクに燃料が残っている状態で機械をしまわないでください。燃料もれがあった場合火災の原因となります。



冷えたエンジンの始動

- ON-OFFスイッチのレバーをONの位置にします。
- 燃料コックを開きます。
- エンジンが冷えている時はチョークレバーを「閉」の位置まで動かします。
- リコイルスターターハンドルを引いて、エンジンを始動させます。
- 始動しましたら、チョークレバーを素早く「開」の位置に戻します。



重要

本機（デッキ）を足でしっかりと押し付け、リコイルスタートハンドルを引いてください。
この時、左手でハンドルを下へ押し付けるようにして握つと本機は安定し、始動が容易です。

危険・警告

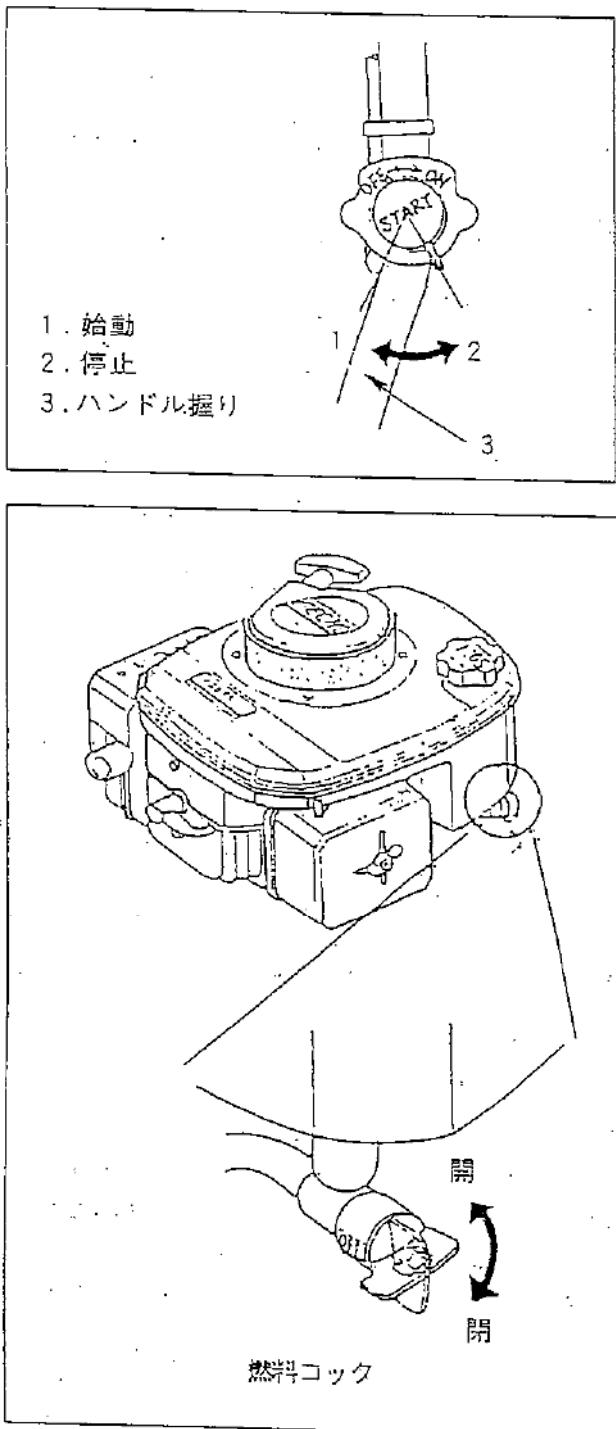
エンジンが始動すると刈刃が回転しますので、手、足を絶対に近づけないでください。

- 始動しましたら、しばらく暖気運転をしてください。



重要

- エンジンを始動する前に、ボルトやナット、ネジのゆるみがないかチェックしてください。
- 作業を始める前に、必ず作業する現場の障害を取り除いてください。
- 機械は、いつも地面にしっかりと置いてください。
- 本機（デッキ）を足でしっかりと押し付け、左手でハンドルを下に押し付け、リコイルスタートハンドルを引いてください。
- リコイルスタートハンドルを引くときは短めに引き、引き紐の1/2から2/3の長さで引いて下さい。
- リコイルスタートハンドルのハンドルが、収納部にはね返らないようにしてください。



暖まっているエンジンの始動

- チョークレバーは開いた位置にしてください。
- リコイルスターターを強く引いてください。

重要

4回リコイルスタータを引いてもエンジンが始動しない時は前項「冷えたエンジンの始動」に従ってください。

エンジン停止

- ON-OFFスイッチをOFFの位置にしエンジンを止めます。
- 燃料コックを閉じます。

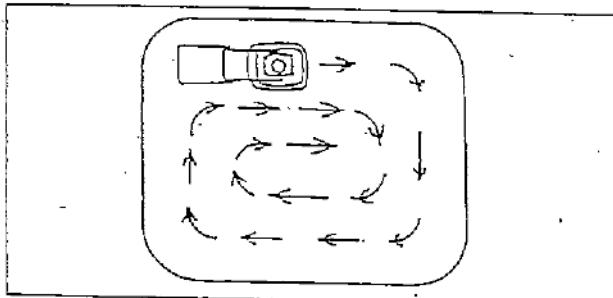
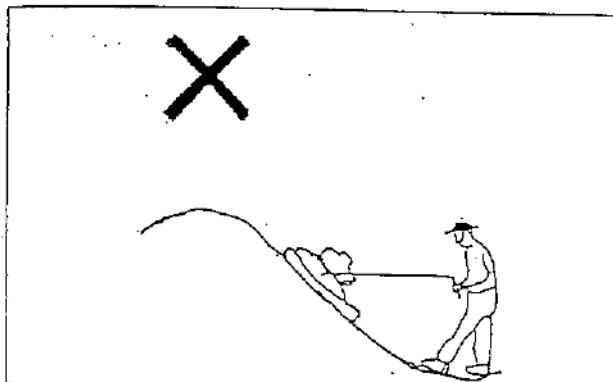
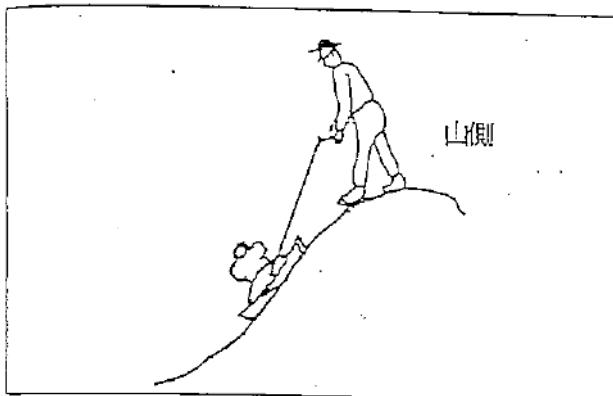
危険・警告

エンジンが停止しないときはチョークを閉じること。エンジンは失速し停止する。
機械を再び使用する前に、販売店にストップスイッチの点検と修理をさせること。

重要

エンジン停止後は燃料コックを閉め、キャブレター(気化器)への燃料供給を止め、次に始動しやすい状態にしてください。

機械を使用しないときや、機械から離れるときは、必ずスパークプラグのコードを抜き、エンジンがかかるないようにしてください。



作業方法

- 作業前に作業場の、石、空き缶、瓶などは危険ですから必ず取り除いてください。
- 地面から出ている障害物の位置を十分に確認してから作業を始めてください。
- 広い平坦な場所では、外周から内側へ時計方向に刈ってください。
- 濡れた草の上は滑りやすいので注意してください。
- 作業中、本機のハンドルは両手で握りデッキが常に地面に平行になるようにして作業をしてください。
- 丈夫で背の高い草は、刈り刃を一番高くセットして、刈ってください。
- 濡れた草は、付着しやすいので、必ずエンジンを止め、時々掃除してください。

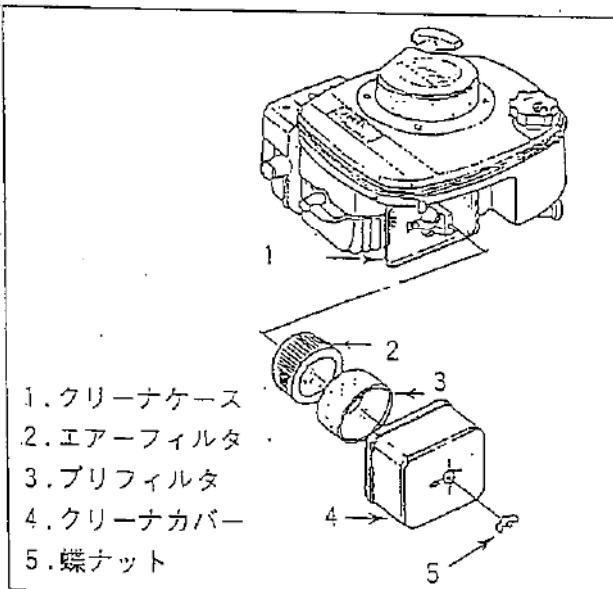
▲ 危険・警告

掃除する時は、必ずエンジンを止め、燃料コックを「閉」にし、刈刃が完全に止まってから、デッキ表面、裏側を掃除してください。なお、デッキを傾ける時は燃料タンクのキャップが上側になるようにしてください。逆にじますと燃料がキャップから漏れますので注意してください。

▲ 注意

滑りにくい保護長靴(先しん入り)で作業してください。

点検・整備



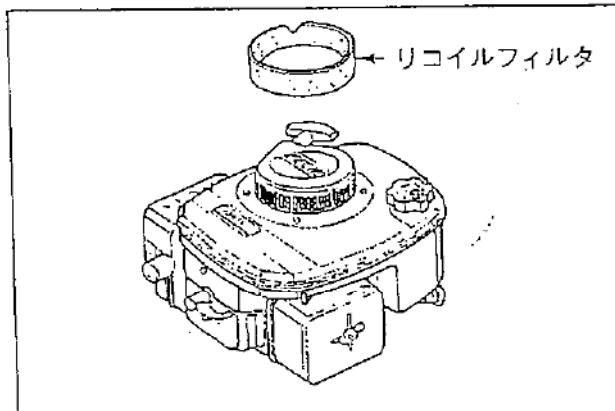
エアクリーナーの清掃

- 作業の後、または前に、毎日行なってください。汚れると、エンジンの始動困難や、回転が低下し、作業能率が著しく落ちる原因になります。
- 1. チョークレバーを「閉」の位置にします。
- 2. エアクリーナカバーの外側を掃除します。
- 3. 蝶ナットを外し、エアクリーナカバーを外します。
- 4. キャブレターの吸込み口にダストを落とさないように静かにエアフィルターを外します。
- 5. ブリフィルタ（ウレタンフォーム）は合成洗剤と温水を混ぜた中で洗います。
- 6. ブリフィルタはよく絞って乾かします。

7. エアフィルタは圧縮空気を内側から吹き付けて汚れを落とします。
この時、エアフィルタの取付け面の汚れも落としてください。
8. エアクリーナーケースとカバーの内側も掃除してください。
この時、キャブレターの吸込み口にダストを落とさないように注意してください。
9. エアフィルタにブリフィルタを取付けます。
ブリフィルタが著しく変形もしくは破損していたら交換してください。

注 意

エアフィルタ、ブリフィルタは共に消耗品です。
早目に交換してください。

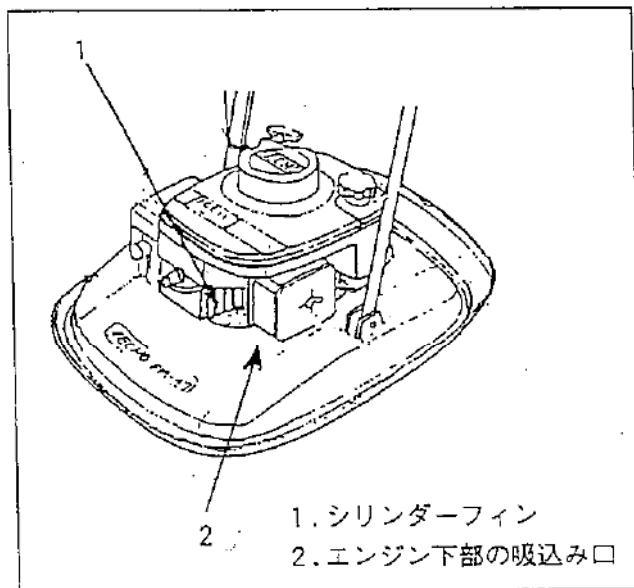


リコイル部ファン吸入口の清掃

- リコイルスタータの吸込み口には、フィルターを設けています。これは、ごみが吸込み口を通って、シリンダーに堆積しないようにしています。
- 吸込み口に刈草や、ごみが堆積した時は、その都度掃除してください。エンジンの冷却能率が落ち、パワーが低下します。
- このフィルターは消耗品です。破損したり、紛失したら速やかに新しい物を取り付けてください。

シリンダーフィンの点検

- シリンダーフィンに刈草やゴミが詰まると、エンジンの冷却が悪くなります。時々点検してください。
ただし、リコイル部のフィルターが破損なく、常に正しく使われていれば、刈草等の侵入は余りありません。



エンジン下部の吸入口の清掃

- エンジン下部の吸込み口に刈草が付着した時は、必ずエンジンを停止させてから、刈草及びゴミを取り除いてください。刈草を付着させたまま使用しますと浮力が落ち、作業性が悪くなり能率が低下します。

危険・警告

特にマフラー下部、エアクリーナー下部に刈草が付着した時は、必ずエンジンを停止させてから、速やかに取り除いてください。

冷却装置の整備

重 要

適切なエンジン運転温度を維持するためには、冷却するための空気が自由に冷却フィンの部分を通過することが必要です。この空気の流れがエンジンが燃焼する際の熱を取り去っています。以下の場合エンジンのオーバーヒートと焼き付きを起こす原因になります。

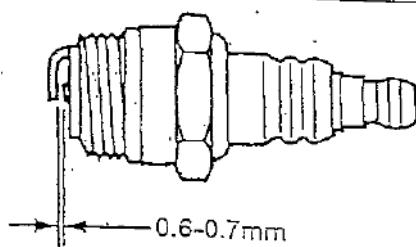
- 空気取入口がふさがっていて、シリンダーに冷却空気が入らないとき。
または
- ゴミや草がシリンダーの外側に堆積していて、これがシリンダーと外気を遮断し、エンジンの熱の放出が妨げられるとき。
冷却空気の通路の障害物を取り除いたり、冷却フィンの汚れを取り除くのは「日常の整備」ですが「日常の整備」の不足によって発生した、いかなる損害も補償されません。
- 冷却フィンの間のゴミと汚れを取ってください。
- 毎回、使用前には必ず、エンジンの底部にある吸気口の回りについたゴミなどを取ってください。

燃料フィルター

燃料フィルターの目つまりは、エンジンの始動困難や性能異常の原因になります。

- 燃料パイプ、キャップ、タンクなどは定期的に点検し交換してください。
- 燃料タンクにゴミを入れないでください。
- 定期的に燃料フィルターを点検してください。
- フィルターが汚れている場合は、ガソリンで洗ってください。
- 燃料タンク内部が汚れている場合は、ガソリンでタンクをすぐときれいになります。

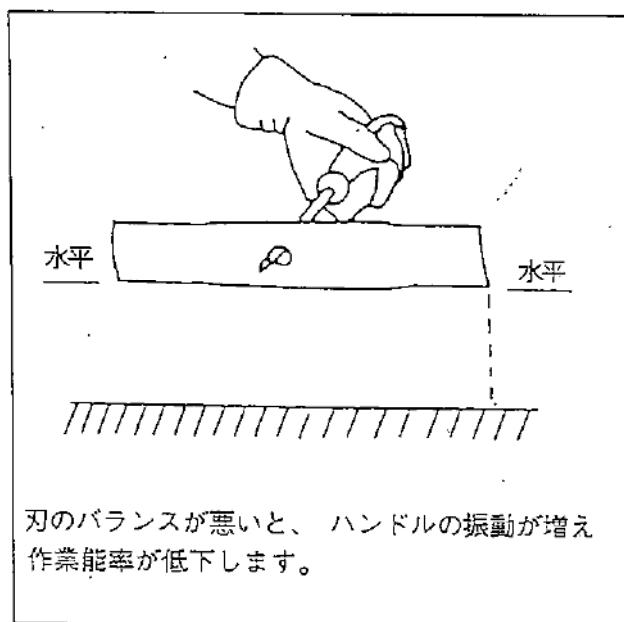
スパークプラグの点検



- プラグの電極のすぎ間を点検してください。正しいすぎ間は0.6~0.7mmです。
- 電極が減っていないか点検してください。
- 絶縁体にオイルや沈殿物が付いていないか点検してください。
- 必要なら、スパークプラグを交換し、145~155 Kg-cmのトルクで締め付けてください。

マフラー（消音器）と排気口の清掃

- 排気口とマフラーにカーボン（スス）が付着すると、エンジン出力の低下につながります。
- マフラー・カバーを取り外すと、マフラーを取り外すことができます。
- ガスケットを点検して、破損していた場合交換してください。
- エンジンのピストンを上限（上死点）の位置にしてください。
- 排気口を清掃するときは以下の点に注意してください。
 - ・シリンダー内にススが入らないようにしてください。
 - ・シリンダーやピストンを傷つけないでください。



刃のバランスが悪いと、ハンドルの振動が増え作業能率が低下します。

刈刃の研磨

- 刈刃の研磨及び交換は、刈刃取付ボルトを外して行ってください。
- 刈刃は当社純正部品をご使用ください。

▲ 注意

刃物ですから研磨はこまめに行ってください。

重要

グラインダを使用して研ぐ時は、急に水などに投げ入れて冷やさないように注意してください。
刃が脆くなります。

▲ 危険・警告

刃のバランスには、特に注意してください。

重 要

刈り刃の締付けトルク: 250 kgf·cm

▲ 危険・警告

欠けや割れのある刃は、危険ですから使用しないでください。

欠けや割れの無い刃に、交換してから作業してください。

故障診断と対策

トラブル		原因	対策
エンジンが	始動しにくい 始動しない		
エンジンが回る	キャブレター → キャブレターに燃料がない の燃料	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料フィルターの目つまり ● 燃料系統の目つまり ● キャブレターに問題 	<ul style="list-style-type: none"> ● 清掃 ● 清掃 ● 販売店へ
	シリンダーに燃料がある	<ul style="list-style-type: none"> ● キャブレター問題 	<ul style="list-style-type: none"> ● 販売店へ
	↓ → マフラーが燃 料で湿っている	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料混合気が濃すぎる 	<ul style="list-style-type: none"> ● チョークを開く ● エアフィルター清掃/交換 ● キャブレター調整 ● 販売店へ
	プラグコードの先端で発火する → ブラグコードの先端で発火なし	<ul style="list-style-type: none"> ● ストップスイッチがきかれている ● 電気的障害 	<ul style="list-style-type: none"> ● スイッチを入れる ● 販売店へ
	↓ スパークプラグは発火する → スパークプラグが発火しない	<ul style="list-style-type: none"> ● 電極のすき間が正しくない ● カーボンが付着している ● 燃料で汚れている ● スパークプラグ不良 	<ul style="list-style-type: none"> ● 0.6-0.7mmに調整 ● 清掃か交換 ● 清掃か交換 ● 交換
エンジンが回らない	↓	<ul style="list-style-type: none"> ● エンジン内部の故障 	<ul style="list-style-type: none"> ● 販売店へ
エンジンは始動する	停止または加速できない	<ul style="list-style-type: none"> ● エアフィルターの汚れ ● 燃料フィルターの汚れ ● 燃料出口がふさがっている ● スパークプラグ ● キャブレター ● 冷却装置が詰まっている ● 排気口/マフラー出口が詰まっている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 清掃か交換 ● 交換 ● 清掃 ● 清掃、調整/交換 ● 調整 ● 清掃 ● 清掃

保 管

長期保管（60日間以上）

機械を長期間（60日間以上）にわたって保管する場合は、以下に示す保管の際の整備を必ず実施してください。

1. 機械を乾かし、子供の手の届かないホコリのない場所に保管してください。



危険・警告

燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のあるそばに保管しないこと。

2. 機械の表面から、グリース、オイル、汚れ、土の固まりなどを取り除いてください。
3. 本書に定められた定期的な注油と点検をしてください。
4. スクリュ、ナット類を締めなおしてください。
5. 燃料タンクを完全に空にして、エンジンをかけ燃料がなくなつて停止するまで回しておきます。

6. エンジンが冷えたらスパークプラグをはずし、その取付穴から大さじ1/2杯の、新しくきれいなエンジンオイルをシリンダーに入れてください。
 - A. スパークプラグの取付穴の上にきれいな布をかけてください。
 - B. リコイルスターターを2、3回引いて、エンジンオイルをエンジンに行き渡させてください。
 - C. スパークプラグ取付穴からピストンの位置を確認してください。リコイルスターターのハンドルをゆっくり引き、ピストンが最も上のところで止めるようにしてください。
7. スパークプラグを取り付けてください（2次コードは接続しないでください）。
8. 湿気やほこりの少ない室内に保管してください。

重要

この取扱説明書は、いつでも読めるように保管してください。

仕様

項目	単位	GMF 47
重量	kg	14.4
容量 燃料タンク	ℓ	1.7
刈刃 刈幅 刈高 刈刃数	mm mm 枚	470 13~38 1
刈刃駆動軸回転方向(上から見る)		時計方向
外形寸法(ハンドルは除く) 長さ×幅×高さ	mm	320×350×450
エンジン 形式		M9 9V 空冷2サイクル単シリンダ
排気量 セット回転数 キャブレタ形式 点火方式 スパークプラグ 始動方式	cc rpm	98.5 3,400~3,700 ウォルブロ・フロートタイプ フライホイールマグネット:CDI方式 CHAMPION CJ-8 Y リコイルスタータ
燃料 混合比		[50:1] ・当社純正2サイクル専用オイル ・JASO性能分類 FC相当品
最大エンジン出力時燃料消費量	ℓ/h	[25:1] ・市販の2サイクルエンジンオイル ・JASO性能分類 FB、FA相当品 1.7

rpm: 1分間での回転数(回転速度)を表わします。



株式会社 共榮社

愛知県豊川市美幸町 TEL(05338)4-1221 (代)

898539-12461
X750407-0601

9607A 619 ES